

水邊を棄
て山上に
家す

ポトラ嶺

で午後五時三十五分ヌルラに宿す。行程約二十二哩、沿途左右の諸山皆禿山にして、花崗岩、緑泥岩、大部を占む、シヤスポーは人家二十三ヌルラは約三十。

十七日午前七時二十分發、同十時一部落を過ぎ、同二十五分、吊橋を渡りて左岸を下り、同十一時五分より印度河インダスに別れ、更に其の一支流を溯りて南行し、山腹の急坂を上下すること二所、次で尙ほ一箇緩坂を登り。坂上人家約三十五戸を有するラマユル村に投宿す。時に午後二時二十分、行程約十六哩とす、沿途部落の有る處には、林檎、杏等の果樹、其他柳樹多し。ラマユル村は「ポット」人の部落なり。同人種は其住居を高處に建つるの習慣ありて、溪流潺湲たる便利の水邊に築かず。當村の如きは、殊に其甚しきものとす。

翌午前七時十七分發、小嶺ポトラを越え、同十一時一小部落を、同三十五分一小橋を過ぎ、其れより偏南西行し、午後一時三十分、行程約十五哩を以てポット、カハルブ村に宿す。但しポトラ嶺は、昇降坂共に緩にして、頂上の路外には、三寸内外の殘雪あるを見る。沿途硅石多し。

二、モウルベトの古佛